

「ことばの重み」

入間野中学校二年 小島 直

皆さんは「ことばの重み」について考えたことはありますか。私たちは普段ことばを使って周りの人とコミュニケーションをとっています。家族や友達、先生方とのなにげない会話、ニュースやネットから流れてくる情報、教科書やプリントに書かれていることば。私はある二つの体験によって、言葉の重みについて考えました。

ことばについて考えるきっかけをくれたのは近所に住んでいた大学生の美実さんです。彼女は重い病を患っていました。当時の私は美実さんと過ごす時間が大好きで、時間があれば彼女のもとへ通っていました。たくさん言葉を交わすわけではありません。「遊びに来たよ」という言葉に「うん」と応えてくれる。寝たきりの美実さんが全力で答えてくれた。その「うん」は涙が出るくらい、心を動かされることばでした。

そしてもう一つ、言葉について考えたきっかけは、学校でのなにげない周囲の会話からでした。「死ね、消えろ。」そんなことばを笑いながら言っている人がいたのです。言っている側も言われている側もショックを受けている様子はなく、会話はそのまま進んでいきました。私はなぜか心がぎゅーつとなり、とても苦しくなりました。私は、なぜ苦しい思いをして亡くなった人がいるのに、皆が軽く「死」ということばを口に出来るのだろうと思いました。

この二つの体験から私は、いかにことばが大切で、力を持つものかということを知りました。ことばは相手を「笑わせる」ことも「悲しませる」こともできる、人間にとって大きな力なのではないかと思っています。

私の学校には「いじめ0宣言」というものがあります。この宣言は昨年の生徒会により作られたものです。私はこれをとってもいいものだと思っています。ですが、これを宣言するだけではいじめ0にはつながらないとも思います。

実際、今までに私も私の友人もいじめとまではいかなかったも、小さないやがらせなどを受けたことがありました。私たちだけでなく、だれにも相談できずに一人、心を苦しめている人がいるかもしれない。そんな人を前に私たちは「宣言」をするだけでいいのでしょうか。その人を前に、手を差し伸べることはできないのでしょうか。私はとても良い「いじめ0宣言」を「宣言」だけで終わらせては

いけないと思います。そのために私は、苦しんでいる人や困っている人をそのままにせず、手を差し伸べたいです。それが原因で自分に目が向けられたとしても、決して折れない心でいたいです。そして「いじめ0宣言」が「宣言」ではなくて本当に「いじめ0」を実現できる学校にしたいです。

私に考えるきっかけをくれた美実さんはもう会うことはできません。それでも私は彼女がくれたことばと思い出を大切にして生きていきたいと思っています。そしてこの世の中の多くの人々がことばを大切にし、一生懸命に生きてほしいと願っています。